

イエスさまの箱舟

マタイによる福音書14:22-33

今、私たちが礼拝をささげている間、隣の部屋、会議室では、「子供と家族の礼拝」が行われています。

担当の方々に御恵みがありますように祈ります。妻を通して聞いたことですが、先月「子供と家族の礼拝」の中で、ノアの箱舟の聖書の学びがあったと聞きました。雨が降りやみ、水が地上からひいて行くと、ノアは確認するために、カラスを放したのですが、地上の水が乾いていなかったもので、出たり入ったりしました。その次には、鳩を放したのですが、鳩も止まる所が見つからなかったもので、ノアのもとに戻ってきました。さらに七日を待って、鳩を放したのですが、鳩はオリーブの葉をくわえて戻ってきました。さらに七日を待って、鳩を放すと、鳩は戻って来ませんでした。このことを子供たちに教えた後、山野さんがうちの長男に「なぜ鳩が帰ってこなかったのか」と尋ねてみました。すると長男は、誰も想像できない答えを出しました。「死んじゃった？」それが長男の答えでした。この答えに、その場にいらした方々みんなが爆笑したそうです。

私もこの話を聞いてしばらく笑いました。

そして、このような考えを一度してみました。ノアが嬉しいニュースのために続けて鳩を放したように、教会も続けて鳩を放したらという考えです。最近の天気が悪くなくて、雨と洪水によって大勢の人々が被害を受けました。そのほかにも、いろいろな事情によって苦しんでいる人々がいます。彼らに嬉しいニュースになる戻らない鳩、すなわち義援金を送ることは、教会がしなければならないことだと思います。今度の豪雨によって被害を受けた熊本南部地域のための募金に参加して下さって感謝しています。そして飯能教会70周年記念として行われている「落ち穂拾い運動(隣人のための献金)」にも参加して下さってありがとうございます。イエスさまの手に取られた五つのパンと二匹の魚が数千人の食事になったように、私たちの献金も、イエスさまの手に取られるように願います。皆様の多くの支えと協力をお願いいたします。

今日の福音書には、逆風にあった弟子たちの話が書かれています。

弟子たちは、逆風のために起こった波によって悩まされます。そのような彼らのところにイエスさまが来られると、弟子たちはイエスさまを幽霊だと誤解したり、ペトロはイエスさまであることを確認するために、船から降りて、水の上を歩いたりします。もちろん、周りの環境によって、沈みかけましたが、イエスさまが捕まえてくださいます。そして、イエスさまが船に乗り込むと、風は静まります。イエスさまによって、弟子たちは逆風と波の中から救われたのです。私はこの場面を黙想して、ノアの箱舟が思い浮かびました。ノアは船を作ることができる技術者ではありませんでした。しかし、ノアが作った船は、40日間の洪水の中でも、150日の間、水が地上で勢いを失わなかった時もしっかりしていました。ノアの船が完璧だったからでしょうか。そうではないでしょう。ノアの箱舟がしっかりしていたのは、その箱舟の中に神さまが共におられたからだと思います。そして、神さまが共におられたノアの箱舟が害を受けなかったように、イエスさまと共にいる弟子たちも害を受けないのです。

今日の福音書であるマタイによる福音書を読んだ初代教会の人々は、ほとんどがユダヤ人でした。

彼らは旧約聖書について詳しくだったので、今日の福音書を読んでノアの箱舟を思い出したかもしれないと思います。そして、イエスさまの姿の中から神さまを見つけることができたと思います。病気を癒して、多くの人々を食べさせる奇跡だけでなく、自然までも治めるイエスさま。このイエスさまが、自分たちが従っているメシアです。この言葉によって、ユダヤ人で構成された初代教会の人々は、より結束することができ、他のユダヤ人たちにも福音を伝えることができたと思います。ところが、今日の福音書は出発点がちょっと特別です。弟子たちが逆風と波にあったのは、イエスさまの言葉に従って向こう岸へ行ったからです。すなわち、イエスさまの言葉に従わなかったら、このような困難を受けなかったでしょう。今日の福音書は、イエスさまの言葉に従ったので、困難が始まったと語っているのです。イエスさまに従うことが平安のためのものであれば、弟子たちは逆風と波から悩まされることが起こってはならなかったのです。船は無事に向こう岸に行かなければならないし、弟子たちには平安と幸せが与えられるべきでした。しかし、イエスさまの言葉に従ったことによって、弟子たちは悩まされました。これは、イエスさまの言葉に従うためには、悩みも与えられるということを語っています。

その悩みは絶対に簡単な悩みではありません。

船に慣れていた弟子たちも、打ち勝つことができないほどの悩みでした。そして、その悩みの時間も短くありません。弟子たちは、夜が明けるまで波を耐えなければなりませんでした（25節）。さらに、弟子たちのところには幽霊が近づいてきていました。イエスさまでしたが、弟子たちは分かるわけがありませんでした。その当時の人々は、湖(海)を悪霊の家だと思っていたそうです。逆風と戦うだけでも、とても大変なのに、幽霊まで表れたのです。

しかし、水の上を歩いて弟子たちのところに来たものは、幽霊ではありませんでした。

弟子たちを救ってくださるイエスさまでした。そしてイエスさまは恐れている弟子たちに驚くべき言葉を与えてくださいました。「安心なさい。わたしだ。恐れることはない。」ユダヤ人ではない私たちには、この言葉がどう聞かれるのか分かりません。安心を与えてくださるイエスさまのあたたかい言葉で聞かれるかもしれません。しかし、ユダヤ人たちにとってのこの言葉は、安心以上の深い意味があるものでした。ここで「わたしだ」というのは、単純にご自分を称する言葉ではありません。原語で「わたしだ」という単語は「エゴエイミー」と書かれています。この「エゴエイミー」という言葉は、旧約聖書で神様がご自分を称するときにお使いになった言葉です。そして「恐れることはない」という言葉は、神さまがイスラエルの民にご自分を表されるときの、いつもおっしゃった言葉です。だから、弟子たちがこの言葉を聞いたとき、または、初代教会の読者たちがこの記事を読んだときは、まるで、神さまが自分のところに来られた感じを受けたでしょう。さらに、イエスさまのこの言葉を聞いたペトロは、イエスさまにしるしを求めます。このしるしを求めることも、旧約聖書の士師や預言者、王たちが神さまの御心を尋ねたときにしたことです。今日の福音書28節の言葉です。「すると、ペトロが答えた。『主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。』」そしてイエスさまは、ペトロの求めを聞いてくださいます。「来なさい。」

私は苦しみの中に益があるのなら、それは、私たちが苦難の中で神さまという存在を知るようになることだと思えます。弟子たちは逆風の中で、ノアは洪水の中で、神の存在についてより詳しく知ることになり、信頼することになったと思えます。弟子たちは、逆風という苦難を通して、イエスさまが一般的な預言者ではないことが分かったと思えます。自然までも治めるイエスさま！本文33節で、弟子たちは、イエスさまが神の子であることを告白します。そして、弟子たちはその神の子が、自分たちを救ってくださる方が分かりました。これが苦難が私たちに与えられる理由だと思えます。

ペトロは苦難を通して、イエスさまがどんな方が分かりました。

だから旧約聖書の時代のリーダーたちが神さまにしるしを求めるように、自分もイエスさまにしるしを求めます。イエスさまがその求めを聞いてくださると、ペトロは船から降りて水の上を歩いてイエスさまのもとに行きました。しるしを求めたのが実現されたのです。しかし、ペトロは実現されたしるしを維持することができませんでした。強い風に気がついて怖くなったからです。そして水に沈みかけました。しかしペトロは、自分を助けてくださる方が誰なのかが分かりました。悩まされた時に自分のところに来られた方、自分を水の上に歩かせてくださった方、その方に助けを求めます。「主よ、助けてください。」イエスさまはすぐに手を伸ばして、ペトロを捕まえ、共に船に乗り込みました。すると風が静まりました。ペトロと弟子たちは救われたのです。

このようなことは、私たちの信者の中でも起こっていることです。

私たちが強い風に吹かれると、周りの環境に目が向きます。イエス様に集中できず、風や波を見ることになるのです。それで、水に沈みかけたこともあります。しかし、皮肉なことに、イエスさまに従いながら、私たちに与えられた苦難が、その時に私たちが何をしなければならないかを教えてくれます。私たちに与えられた信仰の苦難が私たちを救ってくれるというのです。そして、私たちがイエスさまと共に船に乗り込ませるようにしてくれるのです。風は静かになり、私たちがイエスさまと共にイエスさまの箱舟にいるのです。イエスさまに従う道には、時には苦しみも悩みもあります。しかし、このようなものを通して、私たちが、イエスさまを知ることができるようになるのです。そして、その苦難の中で出会ったイエスさまを通して、私たちが救われるのです。本当のイエスさまの箱舟に、乗ることができるようになるのです。その時、私たちがイエスさまと共に箱舟にいるその日、私たちが、私たちに与えられたすべての苦難の理由について分か

るようになるのです。苦難の中でも、イエス様の教えに従っている皆様に神さまの恵みがありますように。